

大分教育事務所訪問②-43 (計116) 大分市立王子中学校に学ぶ3

学校経営から学ぶ

本校の素晴らしい点は、校長先生が掲げる「楽しい学校」について、教頭、主幹教諭、教職員が、それぞれの立場で考え具現化しようとしていることです。また、生徒達にはA（当たり前のことを）B（馬鹿にせずに）C（ちゃんとやろう）という行動目標を定め、2学期はD（できる）を加え、生徒会と共に取り組まれています。そのため、アンケートからも、わかる授業における工夫や、生徒指導に関する取組など先生に対する信頼度が高いようです。

今後は、教職員が何をやるという取組指標だけでなく、それぞれの行事や授業においても、生徒にどのような力（資質・能力）をつけるのか、生徒は何を学び、何ができるようになったかについても分析をすることで、教職員だけでなく生徒自らが資質・能力を意識し、成長を感じるような実践を試みてはいかがでしょうか。



NO.525 2021年11月 大分市立王子中学校

自立

できないことや苦手なことは、友達と協働しながら行う。信頼があるから、自立できる、



NO.523 2021年11月 大分市立王子中学校

協働

仲間を信頼し、良さを引き出しながらプレーをする。みんなで、シュートを決めるんだ。



NO.524 2021年11月 大分市立王子中学校

創造

拍手があふれる教室だから、自分らしい作品を創ることができる。



授業から学ぶ

今回は、技能系の授業を参観させていただきました。1年生美術の鑑賞においては、自らの作品について全員の前で紹介をしていました。拍手やうなずき等、鑑賞する生徒の態度が印象的でした。このように全員の前で発表する方法もありますが、班の中で作品を交換しながら、良い点や質問したい点について付箋をはるなども考えられると思いました。

2年生家庭科では、最初は生活経験から聞きながら、世界の肉について展開させる流れは見事でした。途中で短時間の話し合いを複数回取り入れたり、スライドを使いクイズ形式を取り入れたるすることで、生徒の意欲を引き出していました。

今後は、本時では、どの資質・能力を育成するかを明確にするとともに、指導案の「振り返り」の記述は、教師が願う具体的なゴールの姿を「生徒を主語」にして、資質・能力の3本柱の視点でより具体的に表現してみたいかがでしょうか。そして、教師が考えた「振り返り」と生徒が実際に書いたものとの違いを分析をしたり、「めあて」との連動、評価規準との整合性について協議したりすることで、授業改善がより推進されると思いました。